vinetur

カナダ、予算でワイナリー支援を1億7,690万カナダドル拠出

コスト上昇や市場低迷、気候変動による損失に直面するブドウ園への支援を延長。山火事リスクの高いブリティッシュコロンビア州も対象

2026年11月10日（火）



カナダの連邦自由党政権は2026年度予算で、3年間にわたり1億7,690万カナダドルを確保し、Wine Sector Support Programを更新する。これにより、ブリティッシュコロンビア州をはじめ国内各地のワイナリーに対する支援が延長され、コスト上昇や厳しい市場環境、気候関連の被害への対応を後押しする。

同プログラムは2022年に始まり、洪水や山火事など、気候変動や自然災害に関連する圧力に直面するワイナリーに資金援助を行っている。新たな資金拠出については11月9日（月）、州内の業界団体であるB.C. Wine Growersが歓迎した。同団体は、支援の延長によって企業が長期的な判断を下す際の確実性が高まると述べた。

B.C. Wine Growersの最高経営責任者（CEO）、ジェフ・ギニャール氏は、連邦政府の拠出だけですべての課題が解決するわけではないとしながらも、多くの生産者がなお復旧に取り組み、投資を続けようとしている中で重要な一歩だと評価した。今回の資金は、ワイナリーが先を見通して計画を立て、再建を続ける助けとなり、州内の業界関連雇用の維持にもつながるという。

業界の懸念は抽象的なものではない。サマーランド近郊で発生したボールド・レンジ山火事では、多くのワイン生産者が事業の中断を余儀なくされた。ギニャール氏によると、利用可能な水の大半が消火活動に振り向けられ、必要な量を灌漑システムに確保できなかった。また、一部の作物は熟しすぎて使用できなくなった。

ギニャール氏は、ワイナリーが他のカナダ国民と同じ生活費高騰の圧力に加え、農業やワイン生産に伴う不安定さにも直面する中で、今回の支援が実施されると述べた。ブドウの木が育ち、ワインを生産できるようになるまでには何年もかかる一方、その間も家賃や住宅ローン、税金、保険料などの通常の支出や、その他の運営費は発生し続けるという。

このため、予算措置の意義はブドウ園にとどまらない。飲料業界全体にとって、こうした公的支援はワイナリーの生産維持や投資計画の継続、気象被害からの早期回復を後押しする可能性がある。長い栽培サイクルと安定した設備投資に依存する業界の負担を、一部軽減することにもつながる。

ギニャール氏はまた、地元のワイン生産強化がブリティッシュコロンビア州の経済全体にも広く効果をもたらすと主張した。同氏によると、ブリティッシュコロンビア州産のVQAワインは、ボトル1本の購入につき輸入ワインの5倍の金額が州経済に還元される。ブドウが地元で栽培され、農作業や醸造の仕事も州内にとどまるためだという。

連邦政府の資金援助はカナダ全土のワイナリーを対象とするが、ブリティッシュコロンビア州での歓迎の声からは、同州の生産者が山火事のリスクやその他の気候変動による打撃にいかにさらされているかがうかがえる。同州の生産者にとって、更新されたプログラムは、変動の激しい状況下で在庫の再構築や作物の保護、新たな投資に取り組む際の一定の安定につながると期待されている。